

令和 2 年度

苫小牧市美術博物館事業評価報告書

(令和元年度美術博物館自己点検評価に関する報告)

令和 3 年 6 月 25 日

苫小牧市美術博物館協議会

目 次

- 1 はじめに
- 2 苫小牧市美術博物館自己点検評価の流れ
- 3 自己点検評価の結果
  - (1) 展示事業
  - (2) 教育普及事業
  - (3) 調査研究活動
  - (4) 資料の収集・保存
  - (5) 管理運営
- 4 自己点検評価シート(一次・二次評価)
- 5 これからの美術博物館のあり方
- 6 苫小牧市美術博物館協議会委員名簿

## 1 はじめに

「苫小牧市美術博物館実施計画」の2期目（平成29～31年度）の最終年度となり、「あつめる」、「そだてる」、「ひろがる」をテーマに地域に密着した活動に努めてまいりました。

当館は、国内でも例のない美術館、博物館、埋蔵文化財センターとしての3つの機能を有しております。その共存する機能を活かし、市民が美術・歴史等に触れ、学習によって豊かな感性を育てること、歴史資料や美術作品を収集、保管、調査研究し、市の財産として後世へ継承していくことが館の使命です。

その使命を様々な方法で広く市民、近隣の皆様に知っていただき、ご来館いただくために、アンケート等による事業に対するご意見やご要望を伺い、事業の結果についての自己評価（一次評価）を行い、さらに美術博物館協議会委員による外部評価（二次評価）を行うことで、当館が抱える課題や反省点を改善してまいります。

令和3年6月

苫小牧市美術博物館  
館長 武田 正哉

## 2 苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

### ■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

### ■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会 博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定



年度末

#### 【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると5事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	I.展示事業、II.教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見  III.調査・研究に関する報告と評価 ・各学芸員の1年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見  IV.資料の収集、保存に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているか、どうかを評価  V.管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているか、どうか等を評価	公益財団法人 日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する



### 【二次評価】

一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。



一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館自己点検評価報告書を作成する。

## 3 自己点検評価の結果

### (1) 展示事業

#### 【方針】

博物館と美術館の複合施設として様々な展示活動を実施する。

- ① 複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による展示事業を実施します。
- ② 常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努める。
- ③ 他都市館園や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催する。

#### <分析と評価>

- ・ 1回の特別展、4回の企画展及び特集展示、中庭展示を実施した。
- ・ 特別展「第一洋食店の100年と苫小牧」では、2019年に創業から100年を迎えた苫小牧随一の老舗洋食店及び苫小牧の歴史と文化について紹介した。
- ・ 企画展「とまこまい考古コレクションー縄文からトーチカまでー」では、苫小牧市埋蔵文化財調査センターなどが行った発掘調査により出土した遺物から選りすぐりの資料を展示した。
- ・ 企画展「NITTAN ART FILE 3 内なる旅～モノに宿された記憶」は胆振・日高ゆかりの4人の現代作家を取り上げ、作家の心の中に宿される記憶や物語などをテーマに展示を行った。
- ・ 企画展「浅野武彦の木版画の世界」は川上澄生を師とし、1992年に苫小牧市文化賞を受賞した版画家浅野武彦の作品と資料併せて111点を紹介した。
- ・ 企画展「大正・昭和の鳥瞰図と空から見た昭和30年代の苫小牧」は鳥瞰図の第一人者・吉田初三郎の作品のほか旧志方写真館が撮影した昭和30年代の市内の空撮写真を紹介した。
- ・ 特集展示「植物細事記ー身近な木々の一年を辿るー」は孫田敏氏による身近な植物

をスキャナーで写し取った作品を展示した。

- ・特集展示「収蔵品展 ユア・セレクション～収蔵名品選展より」2018年開催の当館名品選の会期中に実施した人気上位作品を紹介した。
  - ・特集展示「本拠と外/Home and Away」は現代作家大島慶太郎・佐竹真紀の映像作品を中心に展示した。
  - ・令和元年度の展示事業では、地域に根差した展示会を数多く実施したことが観覧者から好評を得た要因と考えられる。
- 一方、二次評価では概ね高い評価を得たが、純粋な美術展が少ない、複合施設として歴史・考古分野に直結させることに重点を置きすぎる傾向がある旨の意見もみられた。

## (2) 教育普及事業

### 【方針】

子どもからお年寄りまで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施する。

- ① 市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会講座、ワークショップなど多彩な事業を展開する。
- ② 学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供する。
- ③ 学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育む。

### <分析と評価>

- ・二次評価では全委員からA評価を得た。小中学校において出前授業を行ったことや郷土学習の実施により児童・生徒に学習意欲が向上することへ期待する声があった。

## (3) 調査研究活動

### 【方針】

自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行う。子どもからお年寄りまで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施する。

- ① 収蔵資料に関する調査研究を推進する。
- ② 樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧地方に関する調査研究を行う。
- ③ 大学などの高等教育機関、他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行う。

### <分析と評価>

二次評価ではA評価が多数を占めた一方、研究成果としての学術論文や学術資料の発表が少なく、Bと評価した委員もいた。また、市民レベルの自然環境調査活動が弱体化しており、それを補う館の役割を期待する意見があった。

#### (4) 資料の収集、保存の方針

##### 【方針】

郷土にゆかりのある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに他館との連携を行い、情報共有を図る。

##### <分析と評価>

- ・「苫小牧市美術博物館資料収集方針」に沿って資料を収集できているが、計画的な整理、リスト化などは今後の課題である。
- ・二次評価では概ね A 評価であったが、B と評価した委員もあり、特に資料のデジタル化とその活用方法について言及する意見が目についた。

#### (5) 管理運営

##### 【方針】

複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指す。

- ① 安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていく。
- ② 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理する。
- ③ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

##### <分析と評価>

- ・施設・設備の抜本的な老朽化対策に苦慮しながらも、予算の範囲内で施設の改修・改善を行った。
- ・コロナ禍において休館措置の影響もあり入館者数は伸び悩んだ一方、経営計画として実施計画・事業計画に沿った運営を行った。
- ・市広報や新聞、館のホームページ等を介して最新情報を公開。友の会やボランティア制度、美術博物館協議会等を活用し、快適な環境を整えることに寄与したことに対する評価の声があった。
- ・その他、予算を確保し施設の整備更新を望む、可能な限り外部資金の獲得を望む意見があった。また、企画展実施に際して市民要望や意見が取り入れられておらず、協議委員との協議を望む意見がみられた。

#### 4 自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

A：成果を挙げている（90－100%）

B：ほぼ達成している（70－80%）

C：より一層努力を要する（50－60%）

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（50%未満）

### I 展示事業

事業活動計画	一次評価（館内自己点検評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	<b>1 展示方針を策定し、計画的に展示を行っている</b> <評価>A 苫小牧市美術博物館実施計画(3か年計画)を策定している。	<評価（中央値）>A <内訳> A:9 B:1 ・ここ数年美術関係の企画展が減少している。美術館が設置されているのに美術品が1点も展示されていない期間があるのは異常。美術の常設展示を望む。 ・複合施設の特性を歴史・考古分野に重点を置きすぎ、展示が偏向している。 ・来館者数に対するアンケートの回答の割合が高くないため、正しい評価が把握できない可能性がある。 来館者を任意抽出した聞き取り調査を併用すると実態を表せる。
	<b>2 収蔵品展の開催および常設展の定期的な更新を実施している。</b> <評価>A 収蔵展示室の定期的な更新や特集展示などを実施。	
	<b>3 展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している</b> <評価>A 特別展「第一洋食展」および企画展「NITTAN ART FILE 3」では図録、活動報告書(小冊子)を作成した。	
	<b>4 館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説、定期的実施している。</b> <評価>A 各展示会における学芸員の展示解説会のほか、担当学芸員の司会進行によるアーティストトーク等を実施した。	
	<b>5 複合施設としての特性を生かした展示活動をしている。</b> <評価>A 特別展「第一洋食店」において、同店所蔵資料を美術と歴史の学芸員が展示を行い、企画展「NITTAN ART FILE 3」では歴史資料を素材に作家が映像作品を製作した。	
	<b>6 他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している。</b>	



	<p>&lt;評価&gt;A 各展示会において道内外博物館、美術館や作家、大学から所蔵の資料を貸借し、実施した。</p>	
	<p>7 アンケート結果により、来館者の高い満足度指数を得られている。</p>	
	<p>&lt;評価&gt;A 各展示会においてアンケートを実施。いずれの企画についても6割以上「良い」という評価を得ている。</p>	

## II 教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>子どもからお年寄りまで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。</p>	<p><b>8 教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 苫小牧市美術博物館実施計画第2期および令和元年度苫小牧市美術博物館事業計画に基づき、教育普及活動を実施している。</p>	<p>&lt;評価（中央値）&gt;A &lt;内訳&gt; A:10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、小中学校の出前講座では大変お世話になり、今後も継続されることを望む。</li> <li>・今後もアウトリーチや郷土学習の充実により小中学生の学習意欲向上する取組、企画を望む。</li> <li>・子どもが楽しめる、興味を持つ内容の企画展の開催を望む。</li> <li>・多角的な普及活動がなされている。</li> </ul>
	<p><b>9 教育普及活動について参加者数の目標を設けている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;B 展示会の目標は設定している。各学芸員が実施している行事等は館全体としての目標は設定していないが、担当学芸員において、都度目標を設定している。</p>	
	<p><b>10 複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している。</b></p> <p>評価&gt;A 専門分野の違う学芸員が協力して「美術博物館大学講座」8回、「無料観覧日」2回、「教員のための博物館の日」1回、実施している。</p>	
	<p><b>11 他館・大学等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 美術博物館大学講座は6機関に講師を依頼したほか、企画展は大学教授を講師に招いて行事を実施している。</p>	
	<p><b>12 博物館の利用についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、</b></p>	

	<p>館の利用を支援する教育普及活動を実施している。</p> <p>＜評価＞A 考古収蔵庫バックヤードツアー1回、標本づくり体験2回、インターンシップ1回、博物館実習1回、職場体験4回を実施している。</p>	
	<p><b>13 入館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている。</b></p> <p>＜評価＞A エントランスにデジタルミュージアム、2階には図書コーナーを設置している。</p>	
	<p><b>14 出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている。</b></p> <p>＜評価＞A 講師派遣による講座15回(724名)、「みゅーじあむ in スクール」を3回(205名)実施した。</p>	
	<p><b>15 学校と連携した行事や教員向けの研修会を充実させている。</b></p> <p>＜評価＞A 市内3・4年生を対象にした「郷土学習」30回(1,521名)、学校への講師派遣7校(501名)、「教員のための博物館の日」1回(47名)、みゅーじあむ in スクール」を3校(205名)で実施した。</p>	
	<p><b>16 博物館実習の実習生を受け入れている。</b></p> <p>＜評価＞A 8月20日～31日まで大学生1名を受け入れ、各学芸員が講師を務め指導した。</p>	
	<p><b>17 アンケート結果により、参加者の高い満足度指数を得られている。</b></p> <p>＜評価＞A 各行事においてアンケートを実施。5段階評価の満足度の平均において高い評価を得ている。今後もアンケートの結果を活かした美術博物館の運営に努めていく。</p>	

### Ⅲ調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	評価・委員コメント
自然、歴史、考	<b>18 専門職の学芸員が常勤として配置されてい</b>	＜評価（中央値）＞A

古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収集する資料に必要な調査研究活動を行います。	る。	<p>&lt;内訳&gt;A:7 B:3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とまこまいの文化財」はとてもわかりやすい調査報告書と思います。文化財を身近に感じます。</li> <li>・日本ザリガニに生態調査の実績を新聞で見ました。様々な研究活動がなされていると感じました。</li> <li>・自然環境の調査に関しては、これまで市民有志が自主的に行い、資料を残してきた面があります。しかし、高齢化により活動が弱体化しており、博物館の役割、今後の活動に期待しています。</li> <li>・研究成果としての学術論文や学術資料の発表が少ないです。</li> </ul>
	<評価>A 学芸職員として7名を配置している。(美術2、歴史2、考古1、自然史2)	
	<b>19 学会の大会や他館、他機関主催の研修や研究会に業務として学芸員を派遣・参加させている。</b>	
	<評価>A 全国美術館会議小規模部会に1名、日胆地区博物館等協議会研修会に1名、国内都市派遣研修に1名が業務として参加。	
	<b>20 展示や教育普及、調査研究の方針、保存など学芸員の活動の成果を館として刊行物等で公開している。</b>	
	<評価>A 定期刊行物として年報6号、だより7号を発行。展示会の刊行物として特別展図録、企画展記録集を作成した。	
	<b>21 館として調査研究の方針・計画を策定している。</b>	
	<評価>A 苫小牧市美術博物館実施計画で方針を策定し、調査研究活動に努めた。	
<b>22 収集している資料と関連する学問分野について、調査研究に取り組み、館として専門誌・専門書を購入したり機材・器具を整備したり、調査研究するための環境整備(予算措置等)を行っている。学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究遂行のための配慮を加えている。</b>		
評価>B 活動調査研究費として必要な予算を計上しており、調査研究遂行のための予算計上はなされている。ただし、調査研究のための勤務時間の確保や環境整備は課題といえる。		
<b>23 資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。</b>		
評価>B 研修会に参加するなど個々での活動はあるが、調査研究以外の展示業務等もあり、博物館学分野での調査研究までには至っていない。		

	<p><b>24 地域への貢献を視野に苦小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる。</b></p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 各分野において苦小牧を中心とした研究課題を設定し、その成果を今年度の展示会で展示物の公開や講座などをおして地域に還元した。</p> <p><b>25 他館や他研究機関と共同研究を行っている。</b></p> <p>-----</p> <p>＜評価＞B 他館と連携した展示は実施しているが、総合的な共同研究は今後の課題。</p> <p><b>26 複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している。</b></p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 特別展開催のための資料調査において図録を作成するなど歴史と美術両面の成果があった。</p>	
--	--	--

IV 資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（館内自己点検評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
郷土にゆかりのある資料を、「苦小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。	<p><b>27 館として資料収集の方針を策定している。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 条例第2条に基づき「苦小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。</p>	<p>&lt;評価（中央値）&gt;A &lt;内訳&gt;A:6 B:3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サミット袋のことが報道番組で取り上げられた時、博物館で保管されているのを拝見しました。そこまでやっているのかと驚いたものです。</li> <li>・寄贈資料については厳選をお願いしたい。</li> <li>・資料のデジタル化が進んでいないようです。また、デジタル化の先にあるデジタル資料の利用拡大方法を検討してください。</li> <li>・資料のデジタル化については是非推進してください。</li> <li>・整理がまだ道半ばであると聞いています。スタッフ(ボランティア・パート等)の補充など検討はされないのでしょうか。</li> </ul>
	<p><b>28 法令、条例、倫理規定などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 条例第2条に基づき「苦小牧市美術博物館資料収集方針」「苦小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。</p>	
	<p><b>29 資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入を決定している。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 「美術博物館資料収集方針」に基づき受け入れを実施。美術資料については、原則、資料収集委員会の意見を参考に資料の受入を行っている。</p>	
	<p><b>30 未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;B 未整理資料の整理については、資料のデジタル化も含めて今後の検討課題といえる。</p>	
	<p><b>31 収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;B 寄贈資料等が増加傾向にあるが、情報の記録に努めている。資料の管理としてナンバーリング、デジタル化は今後の課題である。</p>	
	<p><b>32 総合的有害生物管理（IPM）の考え方に基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。</b></p> <p>&lt;評価&gt;A 燻蒸処理や虫害調査を行っている。今後適切な資料管理を行うための環境整備を進める。</p>	

	<p><b>33 収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している。</b></p> <p>＜評価＞B 展示室では一部温湿度管理を行っている。</p>	
	<p><b>34 展示室内に監視員や監視カメラを配置している。</b></p> <p>＜評価＞A 特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、防犯対策のため監視カメラを設置している。</p>	
	<p><b>35 資料の貸出しを認めると同時に規定・手続きを整備している。</b></p> <p>＜評価＞A 資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載に利用されている。</p>	
	<p><b>36 他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している。</b></p> <p>＜評価＞B 学芸職員部会、研修会への参加により他館等との連携はできているが、今後はより一層の管理レベルの向上を図る。</p>	

## V 管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員に在る評価）
	評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	評価・委員コメント
<p>安心できる美術博物館として、施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。</p>	<p><b>37 施設・設備の維持・改善について計画を立てている。</b></p> <p>＜評価＞B 施設・設備が老朽化しており、施設の維持管理について、財政当局と協議している。</p> <p><b>38 危機管理マニュアルを整備し、防災・消防・救急・救命訓練を定期的実施している。</b></p> <p>＜評価＞A 定期的に防災・消防訓練を実施している。</p> <p><b>39 バリアフリー化について改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。</b></p> <p>＜評価＞A 適宜点検を実施し、「苫小牧市バリアフリー特定事業計画」に基づき実施している。</p>	<p>＜中央値＞A ＜内訳＞A:5 B:4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物そのものがなぜか暗いイメージを持ってしまう。</li> <li>・企画展を実施していないときの入口が暗いので明るい方が良い。</li> <li>・入館者の利用場所は常に清潔で感じが良い。</li> <li>・施設・設備の予算を確保して、更新を進めてください。</li> <li>・他館のチラシ・ポスター類も充実していますが、知らずに帰って</li> </ul>

	<p><b>40 案内表示に関しては、できる個所からまたは計画的に改善を行っている。来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている。</b></p> <p>＜評価＞B 現状職員同士の見直しによる改善を図っているが、今後、市建築課等の専門職員の意見も反映させたい。</p>	<p>しまう来館者もいるため動線に工夫が必要。</p>
	<p><b>41 館内の美化に努めるほか、休憩コーナーを設置するなど利用者の利便性向上に努めている。</b></p> <p>＜評価＞A エントランスおよびラウンジを無料で開放するなど、利用者にとって心地よい館内空間を意識するよう努めている。</p> <p><b>42 利用実態に応じて開館時間を延長したり夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている。</b></p> <p>＜評価＞A 夜間開館を2回実施。今後も利用者の利便性を考慮し検討していく。</p> <p><b>43 質問・相談・問い合わせができる体制（窓口、電話・ファックス・手紙、インターネットの活用など）を整えている。</b></p> <p>＜評価＞A エントランスの学芸員相談コーナーや、ホームページにおいて利用者の意見を広く聴く体制を継続。併せてフェイスブックとツイッターを運用し、利用者への情報発信と利便性の向上を図っている。</p>	
<p>事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。</p>	<p><b>44 館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。</b></p> <p>＜評価＞A 教育委員会のほか、市の関連部署との連携を行っている。</p> <p><b>45 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っている。</b></p> <p>＜評価＞A 週1回の全職員での定例会議や担当者間でのミーティングを随時行っている。</p> <p><b>46 展覧会ごとの観覧者数について目標を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な経営計画を立てている。</b></p> <p>＜評価＞A 入館者数の目標値は市基本計画（2018</p>	<p>＜中央値＞A ＜内訳＞A:9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物・ロケーションが素晴らしいのでもう少し入館者数の目標を多くしては如何でしょうか。</li> <li>・外部資金の獲得に努めてください。</li> </ul>

	<p>～2022年度)で32,500人と設定。また、各展示会の観覧者数については、特別展が5千人、企画展は一展示会につき3千人の目標を立てている。</p> <p><b>47 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している。</b></p> <p>＜評価＞A H26年度より本格実施を計画(本計画)しているが、内容については必要に応じて改善を要する。</p> <p><b>48 年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している。</b></p> <p>＜評価＞A 年報、美術博物館だよりは毎年発行。美術博物館だよりについてはホームページ上でPDF版を公開している。今後も運営状況については積極的な周知を図る。</p> <p><b>49 外部資金の効果的な導入を実施している。</b></p> <p>＜評価＞A 可能な限り外部資金を利用している。</p>	
<p>すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。</p>	<p><b>50 館として広報宣伝計画を策定している。</b></p> <p>＜評価＞A 毎年広報課に次年度の計画書を提出し、計画に沿って市広報誌に掲載している。</p> <p><b>51 館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。</b></p> <p>＜評価＞A ホームページは随時更新し、最新情報を公開している。</p> <p><b>52 館の広報誌（ニュース・レターなど）を発行している。</b></p> <p>＜評価＞A 「美術博物館だより」やこども広報部の広報誌「びとこま」を発行。</p> <p><b>53 入館者数増加に向けた取り組みをしている。</b></p> <p>＜評価＞A 利用者のニーズを反映した企画の検討、並びに新聞への情報掲載、関係機関への印刷物の配布を行っている。</p> <p><b>54 館の利用実態や動向、利用のニーズを把握するために館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。</b></p> <p>＜評価＞A 各事業や展示会ごとに館全体に関するアンケートを実施し、利用者のニーズの把握に努めている。</p>	<p>＜中央値＞A</p> <p>＜内訳＞A:7 B:2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展のリーフを町内会の回覧板にすることはできないか。</li> <li>・様々な媒体を通じた広報活動を行っていると思います。</li> <li>・チラシ・ポスターのデザイン、色使いにセンスアップを望む。展示によりばらつきがあるように見える。(分かり易さという点で)</li> <li>・館の運営の中核である企画展に市民の要望や意見が取り入れられていない。事後のアンケートは行いが、事前のモニターができていない。協議会は監査機関ではない、次年度の計画段階での協議を強く望む。</li> </ul>



<p><b>55 「友の会」を設置すると共に「ボランティア制度」を導入している。</b></p>	
<p>＜評価＞A 登録調査研究支援団体として「郷土文化研究会」「博物館友の会」「美術館友の会」を設置。併せて「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視活動を実施している。</p>	
<p><b>56 地元NPOなどに関わるなど、市民が館の事業に参画する機会を設けている。</b></p>	
<p>＜評価＞A 「樽前 arty プラス」と連携したこども広報誌「びとこま」の発行などNPO 法人と協力した事業も展開している。</p>	
<p><b>57 「博物館協議会」などを通じて市民に、館の運営に参画してもらっている。</b></p>	
<p>＜評価＞A 「美術博物館協議会」を設置し、年2回開催している。</p>	
<p><b>58 地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。</b></p>	
<p>＜評価＞A 特別展の開催にあたっては、商工会議所の協力を得てチラシの配布を行っている。</p>	

## 5 これからの美術博物館のあり方について

市民の皆さんに親しんでいただけるように、美術博物館の事業活動を点検した。まず、令和元年度事業計画に基づき、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集・保存方針、管理運営の5項目の事業及びそれらを細分化した58項目の評価指標からなる一次評価（館による自己点検評価）を実施した。次に、美術博物館協議会委員10名がその一次評価、美術博物館から提示された事業報告等の資料および事業内容の視察などをもとに二次評価を行った。

### 【総合評価】

一次評価（館内自己点検評価）では58指標のうち46指標(80%)がA評価、12指標(20%)がB評価となった。

二次評価では「調査・研究活動」や「資料の収集・保存方針」において、資料の整理やデジタル化の推進による活用についての意見があがり、限られた予算や人員をいかに効率的に各事業に配分するかが課題として挙げられた。今後はこれらの課題解決と共に、高い評価を得た展示事業や教育普及事業をより発展させていきたい。

厳しい財政事情と人員の中での運営は大変なものがあると思われる。前例にとらわれず創意工夫して、各学芸員の調査研究および企画能力を充実させ、市民に「知の拠点」として、ますます頼られる施設となれるよう期待したい。

令和3年6月

苫小牧市美術博物館協議会  
会長 揚 妻 直 樹